



目指せ！絶滅危惧種ミヤマシロチョウの復活 どこから再導入できるかを遺伝解析から明らかにしました

長野県環境保全研究所、兵庫県立大学などによる研究グループ^{注1)}は、絶滅危惧種ミヤマシロチョウの遺伝解析を行い、衰退した野生個体群の復活のため、どの生息地から再導入できるかを明らかにしました。

本成果は1月10日付で国際科学誌「Journal of Insect Conservation」電子版に掲載^{注2)}されました。

【研究の背景】

- ミヤマシロチョウは、長野県特別指定希少野生動植物・長野県天然記念物で本州中部の山地にのみ生息しており、近年、個体数が減少しています。
- 生息地復元のためには、生息環境の改善に併せて、現在生き残っている生息地から個体を運んでくること（再導入）が考えられます。

【研究の概要】

- 長野県、山梨県、静岡県計5地域の個体群（浅間山系、八ヶ岳、赤石山脈）からの遺伝解析により、地域間の遺伝的な違いを評価しました。
- その結果、これらの地域の間で遺伝的な違いはほとんどなく、どの地域から移動させても、ミヤマシロチョウの元の遺伝子を乱すおそれは小さいことがわかりました。
- ただし、個体群によって生息環境が異なるため、再導入の際には、そのことも考慮してどこから再導入するかを検討することが望ましいと考えられます。



左：八ヶ岳山麓のミヤマシロチョウ（2009年 長野県環境保全研究所撮影）。八ヶ岳山麓では、植生などの生息環境の変化により近年ほとんど生息個体が確認されなくなっている。

右：浅間山系のミヤマシロチョウの生息地。食樹を含めて、比較的良好な生息環境が維持されている。

注1) 兵庫県立大学/兵庫県立人と自然の博物館、浅間山系ミヤマシロチョウの会、信州大学、静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアム、山梨県富士山科学研究所、東北大学、長野県環境保全研究所の研究グループ
注2) 掲載論文（英文要旨）はこちらから：<https://doi.org/10.1007/s10841-022-00369-4>

本研究の一部は、日本学術振興会科学研究費補助金及び公立大学法人兵庫県立大学令和元年度特別研究助成金若手支援による支援を受けて実施されました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



〔長野県は「SDGs 未来都市」です〕

SDGs（持続可能な開発目標）は、美しく、誰もが安心して暮らし続けられる社会をめざし、世界みんなで取り組む目標です

環境保全研究所 自然環境部（飯綱庁舎）
（次長）渡辺 昭生（担当）須賀 丈
TEL 026-239-1031（代表）
FAX 026-239-2929
E-mail kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

環境部 環境政策課 総務係
（課長）真関 隆（担当）戸谷 亮太
TEL 026-235-7171（直通）内線 2714
FAX 026-235-7491
E-mail kankyo@pref.nagano.lg.jp